

1月2日 創世記2章1~3節 今日の説教から

説教題：「あけましておめでとうございます」

皆さま、あけましておめでとうございます。旧年は大変お世話になりました。今年もよろしくお願ひいたします。皆様はもう「初詣」には行ったのでしょうか。そもそも、行くのでしょうか。私のキリスト者の友人の中には「神社は神道だから行かない」という人もいれば、「日本の文化として行っている」という人もいました。厳格なキリスト者の家庭では初詣は行かないのかもしれません、あくまでも文化の範囲で神社に行く、あるいは神社の参拝を通していつもとは違う形で神様への祈りを行っている、という方も中に入るようです。

そのような神社に祭られている「神」と、私たちが信仰する「神様」の間には、大きな違いがあります。それは、私たちの神様は「ご利益がある神様ではない」という事です。ここで言うご利益とは、例えば神社に売っている「お守り」のようなもののこと意味しています。私たちはお守りを買う際は、何か特別な効果が得られる事を期待することでしょう。例えば健康でいられるように、交通事故に遭わないように、良縁に恵まれますように、と願いを込めてお守りを求めると思います。

一方で、私たちにはそのように「お金を払って神様にお願いを聞いてもらう」という文化はありません。私たちの信じる神様は、お金を沢山献金したからと言って何か特別なことをしてくれる神様ではありません。人間の力で神様の行動を操ろうとする事は、自分の力を神さまより上であると考えてしまうことに繋がります。それは紛れもなく、十戒で禁止されている「偶像崇拜」の罪に他ならないのです。

それでは、私たちの神様はどのような神様なのでしょうか。一つは、今日の聖書箇所で語られているように、「天地創造の神様」です。最初に、神様は混沌としていた世界に、光や闇、大空や海、生き物や人間を作りました。そのすべてを「良し」として、愛してくれているのが私たちの神様なのです。そして、私たちはクリスマスにお生まれになったイエス様によって、多くの神様の言葉を受け取ることが出来ています。その一つ一つの言葉が私たち自身を照らす光であり、私たちが進むべき道を教えてくれる導きの光なのです。その光であるイエス様を、自分の独り子であるイエス様をこの世に遣わすほどに、神様は私たちの事を愛してくれています。私たちの神様は、かつて存在した歴史上のだけの神ではなく、今もなお私たちに愛を注いでくれている神様です。そして、私たちの神様は、私たちの力で動かすことが出来るような小さな神ではなく、しかしその愛の故に私たちの祈りを聞き届けてくれる憐み深い神さまなのです。そのように、慈悲深く、恵み深い神様が私たちの神さまなのです。

私たちには神様の愛が、イエス様の導きがいつもそばにあるのです。もし私たちが正しい道からそれてしまったとしても、イエス様の言葉に導かれていつでも悔い改めることができます。私たちの人生は全て、その光の中を生きることが許されているのです。その喜びを胸に、今週一週間の、今年一年の歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：創世記 2 章 1~3 節

- 1:天地万物は完成された。第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なさった。この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第七の日を神は祝福し、聖別された。

創世記 1 章 1~5 節

- 1: 初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の靈が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。

ヨハネによる福音書 1 章 1~4 節

- 1: 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成了った。成了ったもので、言によらずに成了ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。